令和８年度第１回滝上町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議録

13 名の推進委員が参加した（名簿、別紙参照）標記会議を終了しましたので、下記のとおり報告いたします。

日時　　令和８年８月 24 日（月）午後 6 時 30 分
場所　　滝上町役場　大会議室

１　委嘱状交付
新しく着任した委員 4 名（関委員、中永委員、堀内委員、菊地（慶）委員に手交。

２　町長挨拶
私からは特に重要だと思われる３つのことについてお伝えします。
一つ目は、町の将来人口目標として 2050 年に 1285 人、2060 年に 1074 人を掲げ、その指針となるのが、滝上町まち・ひと・しごと創生総合戦略である。第３期は令和７年度からの実施計画となり、推進目標・KPI については、誰もがくらしたいと思うまちづくりについては、全ての項目で達成となっているものの、担い手・交流・子育ての分野では芳しくない結果となりました。手順や人流の創出に向けてもう一歩踏み込んだ取組みが必要であると考えています。
二つ目は企業版ふるさと納税の積極的な活用であります。総合戦略関連の事業を力強く推進するための財源として、令和５年度から企業版ふるさと納税を積極的に活用しております。 滝上町に関連する企業・関心がある企業の皆様から寄附を受け、地域振興にご協力をいただいています。 町外の民間企業が持つ資金力や知見、ノウハウといった民間の力を最大限にお借りしながら、戦略的な事業展開と官民連携の強化を図り、持続的な調整の運営の基盤を整えることが大切であると考えています。
そして三つ目は、女性を意識した地域活性化モデルの構築であります。８月現在の人口は、2,132 人、男性が 1,036 人、女性が 1,096 人、女性が 60 人多い状況です。しかし、15 歳から 64 歳の生産年齢人口に特定しますと、生産年齢人口全てが 1,019 人、その中で女性が 463 人男性は 556 人女性の方が 93 人、100 人近く少ない状況であり、女性の割合が男性を大きく下回っているという現状です。 この構造的な課題を打破するためには、女性に選ばれる、女性が働きやすく子育てしやすい、住み続けたいと思えるような地域活性化モデルの構築が今後重要だと考えておりますので、皆さまの多角的な視点での忌憚ないご意見・ご質問をいただきますことをお願い申し上げます。

３　議　題

検討事項・１　まち・ひと・しごと創生総合戦略（第３期）の推進目標・KPI について

→資料１をもとに達成した目標やKPI、できなかった目標・KPI について確認。

質問・意見なし

検討事項・２　企業版ふるさと納税の寄付状況について

→資料２をもとに令和７年度における寄付状況とその充当事業と関するKPI について報告

意見・質問なし

検討事項・３　まち・ひと・しごと創生総合戦略（第３期）について

→資料3-2 をもとに事務局から国から発出された「トイレの便器数に係る基準と適用のあり方に関するガイドライン（概要)」について説明。

また、内閣府男女共同参画局の作成した「女性用トイレ行列解消の取組み課題対策事例集」をもとに全国の事例について伝えた。

→資料3-1 をもとに町長より自治体と企業の連携強化を目指して道が主催する「ほっかいどう応援セミナー」において企業向けに発表する内容「『心地よさ』で地域を強くする企業様×滝上町で創る、女性を意識した地域活性化モデル」について共有。

今年の芝ざくらまつりにおいて女性用トイレの少なさが課題として浮き彫りになった。これまで男性目線でハード整備が進められてきた反省に立ち、ほっかいどう応援セミナーでは町長自ら企業向けのプレゼンを行い、女性目線のノウハウや人的支援を求める。

→質疑応答

なし

４　まちづくり戦略に関する意見交換

淺井委員長：(郵便局）女性職員が多く在籍しており、女性特有の保健取扱いに向けた女性中心のプロジェクトチームを立ち上げ成果を上げている。

水野副委員長：(渓樹園）職員の７割が女性職員であり、結婚・出産後も働き続けられる環境になってきているが、子どもの送迎時間によるシフト調整等が課題。また施設入居者は女性が多いため、女性トイレの拡充が必要となっている。

岡田委員：(社会福祉協議会）ホームヘルパー等の現場業務において入浴介助等更衣室のスペースが必要となっており、現在は洗濯室等で代用している。

阿部委員：(商工会）芝ざくらまつりの出店者会議では毎年公園のトイレ不足や故障が深刻な問題として挙がっており、早急に対応してほしい。

吉田委員：(森林組合）現在現場に女性はいないが、今後女性が働くためには現場のトイ

レや着替えスペースが不可欠であり、事業者への助成制度等を検討してほしい。

井上委員：（観光協会）公園や道の駅のトイレは和式が半数以上を占めるため、インバウンド客や冬の流氷観光バス利用者が重なると大行列が発生する。洋式トイレの設置が必要。

大原委員：（建設業協会）名寄市などの現場を見ることがあるが、工事現場には男女別の「快適トイレ」が導入されるようになっているが、実際には現場に女性作業員がゼロであるケースが多い。国が決めているのかどうなのかは知らない。

堀内委員：（滝上中学校）多様性を重視し、年３回の個別面談を通じて性別にかかわらず職員の困りごとをくみ上げるようにしている。

宮崎委員：（滝上小学校）女性管理職を増やす動きが活発化している。ハラスメント防止対策や快適なトイレ環境の維持が重要視されている。特に転勤して来る若い女性教職員のためには住環境を整えることが重要。

菊地委員：（北見信金）男女関係なく体調不良等でとれるウェルネス休暇を新設したが、実際に使いやすい職場環境であるかが課題。また、女性の制服を廃止しビジネスカジュアルを導入したことが、人材確保の面で有効に働いている。

〇水上課長からまとめ

それぞれのお立場での取り組み、課題などお話が聞けました。ありがとうございます。

〇清原町長より総括

寄せられた多角的な意見を今後のハード整備・ソフト整備の充実（ウェルビーイングの向上）に反映させるとともに、女性が住みやすいまちづくりを引き続き推進してまいります。